平成27年度　第3回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

１　日　時　平成２８年１月２１日（木）午後３時から
２　場　所　生駒ふるさとミュージアム　多目的室
３　出席者
（委　員）森岡伸枝（議長）・朝日野茂利（副議長）・池田健二委員・大原暁委員・米田惠美子委員・島谷佳子委員・清水泰之委員・中田弘司委員・南部茂明委員・平井冨久子委員・堀内生嶺委員・中嶋美佳委員

（事務局）西野生涯学習課長・錦生涯学習課長補佐・松本図書副館長・平澤北分館長・吉田生涯学習文化係長・村上生涯学習文化係員

（欠席者）鉄東喬委員

（会議の公開・非公開）　公開

（傍聴者）なし

４　議事内容

○　審議案件
（１）　近畿地区社会教育研究大会等の報告について
各参加委員から感想を聞く。

米田委員　　地域づくりがテーマの分科会に参加し、空き家の古民家再生で町おこしをする事例だった。学生を巻き込んで町を活性化させるという点が重要だと思った。

平井委員　　学校、家庭、地域の協働がテーマの事例だった。その事例では、学校側の受入れ体制が整っていたので、連携がうまくいっているのではないかと思った。

朝日野委員　　外国にルーツを持つ子どもたちへのサポートに関する事例だった。外国にルーツを持つ家庭によってレベルは違うが、言葉の壁、文化になじめないなどの生活の壁があり、そういった問題を把握するためには、家庭からの発信を待つのではなく、学校から働きかけることが大事である。クラス、学年、学校を越えて、外国にルーツを持つ子ども同士で関わり、連帯感を持つことが大切である。学校内の教員ではサポートしきれない部分をボランティアの方たちにサポートしてもらうこと、語学力向上には日本語指導教員が必要であり、また、その支援や指導は、子どもだけでなく保護者にも重要になってくることがわかった。

島谷委員　　全体会は春日大社の宮司である花山院氏の講演だった。普段は見ることのできない神事や祭殿の写真を見せていただき、改めて奈良県に住んでいることを誇りに思えた。分科会では学校、家庭、地域の協働の事例だった。過疎化の地域の事例だったので行政、学校、家庭が一丸となって行動されているのが印象に残った。

（２）　平成２８年度生駒市社会教育の重点目標（案）について

（質　疑）

清水委員　　（４）文化財保護についてに記載の「歴史文化」、（６）文化芸術の振興についてに記載の「文化芸術」という文言は、四文字熟語として存在せず、国語的な意味合いでは文化の中に歴史や芸術も含まれるのではないか。その表現について質問あり。

錦補佐　　「文化芸術」という言葉については、文化芸術振興基本法という法律があり、その法律に則って使用している。文化庁や奈良県でも使用している。
「歴史文化」については調べさせていただきたい。

堀内委員　　言葉に違和感があるのであれば「歴史や文化」、「文化ならびに芸術」とすればいい。

議　　長　　行政なので国の方針に従うことになる。
「生駒歴史文化友の会」は実際に設置されているのかと質問あり。

西野課長　　現在、「生駒歴史文化友の会」は設置運営しているので、造語かもしれないがこのまま使用したい。「文化芸術」「歴史文化」の文言について調査し、正副議長と事務局で協議し、最終案を作成するということで了承していただきたいと回答。

委員一同　　了承

南部委員　　「ビブリオバトル」について質問あり。

松本副館長　近年、開催されている知的書評合戦のこと。年配の方に分かりにくいようなら注記を入れるようにすると回答。

島谷委員　　ビブリオバトルは全国大会も開催され、とても活発に行われている。市内中学生のビブリオバトルでは、不参加の中学校があり残念だった。全中学校が参加するように働きかけてほしいと要望あり。

松本副館長　今年度は 2 校不参加だった。全中学校が参加してもらえるように声掛けをして

いきたいと回答。

大原委員　重点目標の協議から決定までの流れについて質問あり。
ビブリオバトルなど具体的な事業名を明記しているが、イコマニア１００など他の多くある事業について具体的に明記しないのか、奈良先端科学技術大学院大学などの大学との連携が目標にあがっていないがどのように考えているのかと質問あり。

西野課長　社会教育委員会議は教育委員会の諮問機関であり、この会議で協議した重点目標（案）を教育委員会に提案し、教育委員会の承認を得るものと回答。
イコマニア１００については、生駒市全体の事業となるので「社会教育の重点目標」（案）にあげていない。生涯学習部で予算要求している事業について主要な施策をあげている。大学との連携については、奈良先端科学技術大学院大学、奈良女子大学、帝塚山大学などと事業ごとに連携して実施していると回答。

議　　長　大学との連携については、（１）生涯学習の環境整備についての⑤に「有識者等が自身の知識や経験を活かして」とあるので、同様の意味にとれる。

中嶋委員　（５）青少年の健全育成についての⑦青年団体が主催する同世代交流やまちを活性化する諸事業を支援すると記載されているが、市としての具体的な内容について質問あり。

西野課長　ベルテラスなどの事業では、場所の確保、商店街への協力要請や掲示物での PR などでバックアップしていると回答。

中嶋委員　同世代交流や、地域の活性化をしたいと考えた時に、どういうものがあり、どういったことができるのかわからないことが多いので、もっと情報があればと思う。市からの告知についても紙媒体が多く、若い世代は見ることが少ない。ホームページで公開されていても容量が重く、パソコンでないと見ることができないので、スマートフォンなどでも手軽に情報収集できる環境にしてほしい。これから何かをしたいという人のために考えてほしいと要望あり。

西野課長　広報などは市全体の問題なので、生涯学習課で改善することはできないが、何か良い方法がないか検討していきたいと回答。

議　　長　情報化社会に向けての取り組みのような点はあがっているかと質問あり。

西野課長　（１）生涯学習の環境整備についての①にある「情報発信に努めて」という部分に含まれると回答。

池田委員　いこま国際音楽祭について質問あり。

西野課長　委員の皆様にも厳しいご指摘をいただき、２８年度は制度を一新し、提案公募型の事業に転換していく予定であり、事業形態が大きく変わるので、昨年度との比較は難しくなる。今年度のいこま国際音楽祭の最終的な決算書はまだ提出されていないが、集客数は減少したものの、若干の黒字と聞いていると回答。

堀内委員　監査をしているいこまどんどこまつりは、いこま国際音楽祭と同様に実行委員会方式で開催し、１,３００万円の補助金が出ているが、どんどこまつりについては補助金の額に見合うだけの集客力がある。夏祭と音楽会で比較はできないかもしれないが、いこま国際音楽祭は５００万円の補助金で集客数が少なすぎる。また、コンサートの集客数の中に、音楽塾（３小学校）の参加者も含めて集客が増えたというのはおかしい。コンサート自体は素晴らしいものだが、運営方法に問題があるのではないか。と質問あり。

西野課長　委員の皆様の意見を受けて、来年度は事業内容を見直しすることになった。複数団体から事業の提案をうけ、良いものを採用する提案公募型のいこま国際音楽祭を実施する予定であり、より良いいこま国際音楽祭になることを期待していると回答。

議　　長　いこま国際音楽祭で何を目指し、達成できたのか、コスト面もどう変わったのか示してほしいと要望あり。

池田委員　日本古来の将棋や囲碁などを盛り上げるために、何か支援は考えていないのかと質問あり。

西野課長　将棋などは趣味的な面があるので、自主学習グループとの区分けが難しいかと思う。自主学習グループの公開講座の活動などでは、施設使用料や、講師謝礼について支援している。指定管理者の自主事業として大会等の開催について提案することは可能であると回答。

（３）その他

会議開催前の意見交換会について報告

清水委員、南部委員が所属団体である生駒市人権教育推進協議会、民生・児童委員連合会の活動内容について報告。生駒市の子どもの貧困についての意見交換会となった。

閉　　会